

令和4年度福岡県子ども会育成連合会主催

第2回

ふるさと運動

糸島市子ども会育成会連絡協議会

タイムスケジュール

10月10日(月)

集合／受付	9:00
高祖神社見学	9:30~10:10
移動(高祖神社 ⇒ 怡土城城壁跡)	10:10~10:30
怡土城城壁のお話し	10:30~10:45
移動(怡土城城壁跡 ⇒ 伊都国歴史博物館)	10:45~11:00
伊都国歴史博物館見学、お話し	11:00~12:00
昼食／ファームパーク	12:00~13:30
勾玉づくり(伊都国歴史博物館)	13:30~15:00
諸連絡	15:00~15:20
解散	15:30

令和4年度 福岡県子ども会育成連合会ふるさと運動実施要項

〔目的〕 それぞれの地域で活動する小学生、中学生に対し、ふるさと糸島市の自然、風土、歴史、文化、産業などへの理解を深めつつ、糸島の魅力やすばらしさを直接体験することにより、魅力の宝庫である糸島への郷土愛を深めることを目的とします。

〔主催〕 福岡県子ども会育成連合会

〔主管〕 糸島市子ども会育成会連絡協議会（糸島市役所地域振興部 生涯学習課）

〔日時〕 第1回 9月23日（金・祝） 9時受付、16時解散
第2回 10月10日（月・祝） 9時受付、15時半解散
第3回 11月23日（水・祝） 9時半受付、16時解散
第4回 12月4日（日） 10時受付、15時解散

〔参加対象〕 糸島市に居住する小学5年生から中学3年生を対象とする。
ただし、4回の活動すべてに参加できることを原則とし、参加者には保険（全国子ども会安全共済会）への加入が必要となります。

〔申込方法〕 所定の申込書に必要事項を記入後、参加費を添えて、下記の事務局に提出してください。

〔申込締切〕 令和4年9月9日（金） ※定員／20名、先着順となります。

〔参加費〕 4,000円（活動4回分） ※申込書提出時に徴収します。

〔その他〕 （1）保険（全国子ども会安全共済会）は150円となります。
地域の子ども会で加入されている場合には、再度の加入は必要ありません。
加入されていない場合、地域の子ども会で加入してください。
子ども会に参加されていない場合には、事務局で加入手続きをしますので、お申込みの際に150円をお支払いください。
（2）参加費は昼食、交通費に充てます。

【お問い合わせ先】

糸島市子ども会育成会連絡協議会事務局
（糸島市役所 生涯学習課内）

担当：西原

TEL：332-2092 FAX：323-2344

メール：shogaigakushu@city.itoshima.lg.jp

◇◇ ふるさと運動の活動内容 ◇◇

【第1回】～昔の前原町はどうだったの?～

- 日 時： 令和4年9月23日（金・祝） 9時集合～16時解散
- 集合場所：前原コミュニティセンター ○解散場所：前原コミュニティセンター
- 内 容： 受付・開会式 ⇒ 前原旧市街地（唐津街道）に関するお話し ⇒ 散策/旧市街地（唐津街道） ⇒ 料理に挑戦/ふるさとの味「そうめんちり」 ⇒ 昼食（コミュニティセンター） ⇒ 散策/古民家見学 ⇒ 閉会式 ⇒ 解散

【第2回】～糸島の歴史を知ろう!～

- 日 時： 令和4年10月10日（月・祝） 9時集合～15時半解散
- 集合場所：高祖神社 ○解散場所：伊都国歴史博物館
- 内 容： 受付・開会式 ⇒ 高祖神社見学とお話し ⇒ 怡土城城壁跡見学 ⇒ 伊都国歴史博物館見学 ⇒ 昼食（ファームパーク伊都国） ⇒ ものづくりに挑戦/勾玉づくり（伊都国歴史博物館内） ⇒ 閉会式 ⇒ 解散

【第3回】～糸島の農業を体験しよう!～

- 日 時： 令和4年11月23日（水・祝） 9時半集合～16時解散
- 集合場所：糸島手作りハム ○解散場所：ブルーベリーガーデン伊都
- 内 容： 受付・開会式 ⇒ 手作りハムづくりに挑戦（糸島ハム工場内） ⇒ 昼食 ⇒ 農業体験・農園見学（ブルーベリーガーデン伊都） ⇒ JA（糸島農業協同組合）カントリーエレベーターのお話し ⇒ 閉会式 ⇒ 解散

【第4回】～糸島の名産品、漁業を知る!～

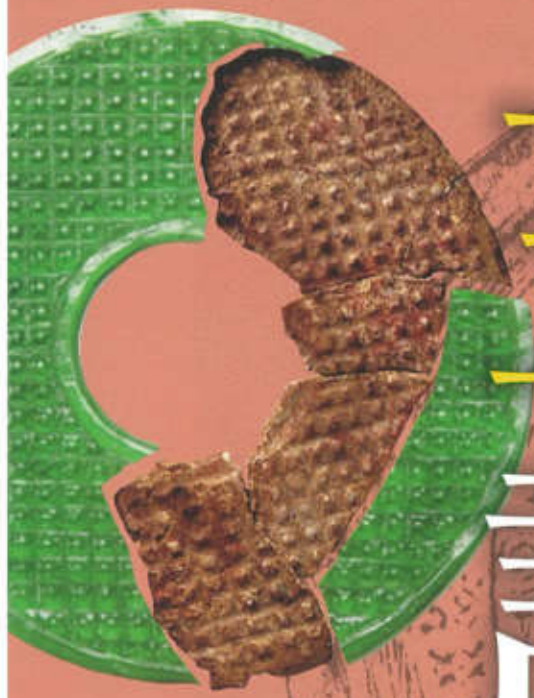
- 日 時： 令和4年12月4日（日） 10時集合～15時解散
- 集合場所：北伊醤油（船越） ○解散場所：引津コミュニティセンター
- 内 容： 受付・開会式 ⇒ 北伊醤油蔵（醸造所）見学とお話し ⇒ 船越漁港カキ小屋作業の見学とお話し ⇒ 昼食（カキ小屋） ⇒ 引津コミュニティセンター ⇒ 閉会式（振り返り） ⇒ 解散

※活動内容については諸事情により、変更になる場合があります。

伊都国 誕生

令和4年度伊都国歴史博物館秋季特別展
三雲南小路王墓発見200年記念

清和の定み御隣りともなふ所といふありと日
今歳文政五年十一月二日大坂小路



令和4年

10.8(土) ▶ 11.27(日)

月曜休館 ※ただし、10月10日(月・祝)は開館し、翌10月11日(火)が休館
開館時間 / 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【会場】伊都国歴史博物館 1階企画展示室 他

【観覧料】大人400円(団体300円) 小・中・高校生200円(団体150円)

※団体料金の適用は20名以上 ※身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳等を提示した場合料本人(1人)を含め無料

主催 糸島市立伊都国歴史博物館 糸島市



【関連イベント等】

特別講演会① 10月15日(土)14時～15時30分
「伊都国の王都を探る—三雲・井原道路の発掘調査成果」
講師:江崎 靖隆(糸島市文化課)

特別講演会② 10月29日(土)14時～15時30分
「伊都国の対外交流」
講師:森本 幹彦氏(福岡市文化財活用部埋蔵文化財課)

特別講演会③ 11月5日(土)14時～15時30分
「青柳種信と伊都国王墓の記録」
講師:八嶋 義之氏(福岡市博物館市史編さん室)

特別講演会④ 11月19日(土)14時～15時30分
「三雲南小路王墓の発見と歴史的意義」
講師:柳田 康雄氏(国学院大学博物館客員教授)

※電話または博物館の窓口にてお申し込みください(10月1日土受付開始)
※各回とも先着70名 ※参加費:400円(観覧料を含む)

【体験ワークショップ】

10月30日(日)、11月3日(木・祝)、
11月23日(水・祝)
時間 / 10時～12時
「伊都国王に変身! 甕棺に入ってみよう!!」
弥生人の衣装を身につけ、甕棺(レプリカ)の中に入る体験。
死した後の伊都国王の気持ちが変わるかも。

※電話または博物館の窓口にてお申し込みください(10月1日土受付開始)
※各回とも先着5名 ※対象:小学生以上
※参加費:大人400円、小・中・高校生200円
(観覧料を含む、付き添いの方も観覧料が必要です)

同時開催 「国宝平原王墓出土品 未公開資料特別公開」

糸島市立 伊都国歴史博物館

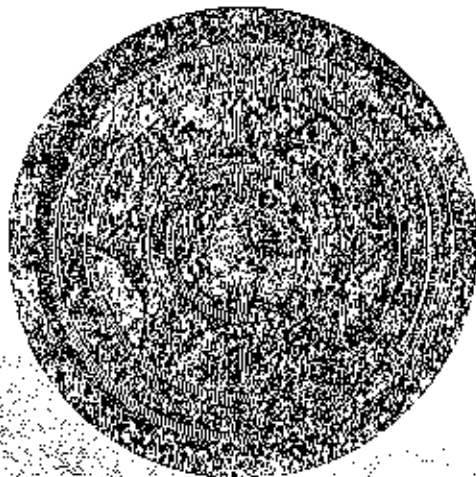
所在地:福岡県糸島市井原916 TEL:092-322-7083

伊都国王誕生

令和4年は伊都国の王墓である三雲南小路遺跡が初めて発見されてからちょうど200年にあたります。この節目に際し、改めて糸島の歴史を深く掘り下げ、北部九州における伊都国の重要性を見つめなおす特別展を開催します。

本展では三雲南小路王墓からの出土品をはじめ、同時期に造られた北部九州各地の王墓からの出土品や伊都国各地の遺跡で発掘された出土品、江戸時代の三雲南小路王墓発見時の記録などを中心に展示します。

『魏志』倭人伝に記された国々の中でも、ひととき繁栄を極めていた伊都国。その実像やこれまでの研究の歴史を出土品や古記録などから紐解きます。ぜひ、ご観覧ください。



対峙・対峙の有力者の姿
立岩畑田遺跡出土鏡(8号鏡)
重要文化財(福岡県立歴史資料館所蔵)

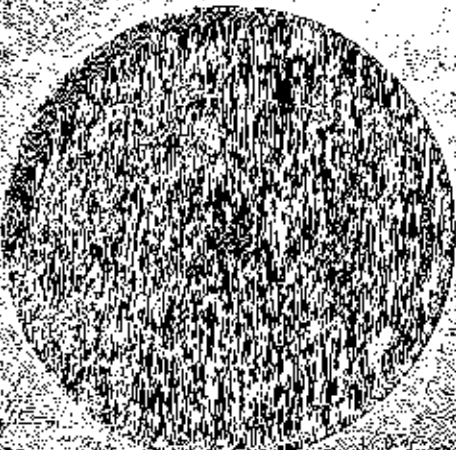


青銅器が残した記録
初例種係関係資料 三雲出土鏡拓本(糸島市博物館所蔵)
※会期中に図録発行を予定しております。



伊都国王墓に陪葬された貴重な品々
三雲南小路王墓1・2号墓出土品
福岡県指定(福岡県教育委員会所蔵)

世界に約35個しか
存在しない貴重な銅鏡
僅中国出土、彩画(文)鏡
福岡県立史料館所蔵
※2段の扉を有する中入型(2017年)



本展で北部九州各地の
東小田遺跡跡10号墓出土品一括
重要文化財(福岡県教育委員会所蔵)



王墓発見の記録を映した
薄柳種係尚書
(福岡県立図書館所蔵)



糸島市立 伊都国歴史博物館

〒819-1582 福岡県糸島市井原916番地 TEL:092-322-7018

バス

JR筑肥線波多江駅からミニバス井原山線井原山行き、伊都国歴史博物館前下車。
または、JR筑肥線周船 幸根からミニバス川原線川原行き高祖(バス停)下車徒歩10分。

車

【福岡市方面から】九州自動車道福岡インターまたは太宰府インターから福岡都市高速道路経山
西九州自動車道今宿インターを降り、国道202号波多江交差点を左折、約8分。
【津津方面から】国道202号波多江交差点を右折、約8分。



同時
開催

国宝平原王墓出土品 未公開資料特別公開

本展では、福岡県立歴史資料館所蔵の、
「伊都国歴史博物館」で初めて公開する
「伊都国歴史博物館」で初めて公開する
「伊都国歴史博物館」で初めて公開する
「伊都国歴史博物館」で初めて公開する
「伊都国歴史博物館」で初めて公開する

高祖神社は彦火々出見尊、玉依姫尊、氣長足姫尊(神功皇后)を祀っており、三代実録によると元慶元年(877年)の頃に筑前國正六位高嶺比賣神に從五位下を授くと記されているのが高祖神社のこととされていることから、1100年を超える悠久の歴史を有し、かつての伊都国の総鎮守(のち怡土庄の宮)として数多の崇敬を集め今日に至っております。

永正四年(1507年)当時の高祖城主原田興種公によって現在地へ遷宮され、その後、天文十年(1541年)、元龜三年(1572年)にそれぞれ高祖城主原田隆種公、原田親種公によって修理がおこなわれ、特に寛文二年(1662年)には、時の福岡藩三代藩主黒田光之公によって再建されております。

現存する本殿は、三間社流造の檜皮葺であり、約350年前の姿をほとんど留めていることから、福岡県下でも数少ない極めて貴重な建造物として高い評価を得ております。

加えて、元禄六年(1693年)には福岡藩四代藩主黒田綱政公から石鳥居の寄進があり、境内入口に建立されております。

本殿、拝殿および石鳥居などが平成二十四年三月二十六日に福岡県の有形文化財建造物に指定されました。平成二十九年三月、平成の大改修が完工し、本殿が三百五十五年前の姿そのままに蘇りました。

また境内社として徳満神社があり、牛馬を始め、動物の守護神として崇められています。

祭典(年間)

- 一月一日：元旦祭
- 四月第四日曜日：春大祭 高祖神楽奉納
- 六月第四日曜日：夏大祭・千度潮升
前日夜茅の輪くくり
- 九月一日：風止祭
- 九月十三日：徳満宮大祭
- 十月第四日曜日：秋大祭
高祖神楽夜神楽奉納
- 十月三十一日：神立祭
- 十一月三十日：神待祭
- 十二月上旬：大麻頒布祭
- 十二月中旬：注連縄作り

伊都総鎮守

高祖神社

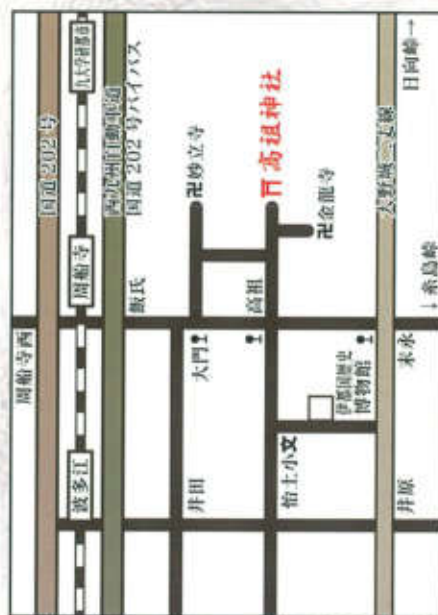
宮司 上原 和恵

〒819-1571 福岡県糸島市高祖 1578

TEL (092) 322-7133

【交通】

福岡方面より国道202号バイパス飯氏交差点左折、約8分
唐津方面より国道202号バイパス飯氏交差点右折、約8分
JR/筑肥線周船寺駅下車、昭和ミニバス川原(かわぼる)線
8分、高祖(たかす)下車、高祖神社へ徒歩約5分



ホームページをご覧ください。

たかすじんじや

検索

<http://takasu-jinja.or.jp>

伊都総鎮守



高祖神社



〈福岡県指定有形文化財〉 高祖神社〔建造物〕

平成二十四年三月二十六日指定

本殿：三間社流造、檜皮葺
寛文二年（1662年）
福岡藩三代藩主黒田光之公
によって再建

拝殿：正面三間、側面三間
入母屋造
享保十六年（1731年）
建立

石鳥居：石造明神鳥居
元禄六年（1693年）
福岡藩四代藩主黒田綱政公
寄進建立



筑前国名勝図巻より抜粋
文政四年（1821年）

〈福岡県指定無形民俗文化財〉 高祖神楽〔民俗芸能〕

昭和五十六年三月五日指定

高祖神楽は今から550年前の応仁元年、高祖城主、原田筑前守重親が京都守護に当たった時、戦陣のつれづれに買得した「京の能神楽」を郷土に伝えたものとされています。

永い歴史と伝統を受け継がれて来た高祖神楽は、江戸時代までは旧伯土郡の神職の奉仕で興われていましたが、明治になつてからは高祖神社の氏子の入たちによって受け継がれ、現在は氏子の神楽師の奉仕で、春と秋の年二回、高祖神社境内の神楽庭で奉納され、特に秋の夜神楽は、かがり火の中で踊り上げられる幻想的な舞を堪能できます。

昭和46年5月19日に前原町指定民俗文化財、昭和56年3月5日には福岡県無形民俗文化財の指定を受けています。

面を着けずに採り物を掛けて奏の音にあわせ神楽歌を唱えながら舞かに舞う神楽と、面を着けた数人の神楽師が登場して神話物語りを展開させてゆく面神楽が奉納されています。

※採り物とは降神の泊る所になる鈴、刺・玉のこと

また、地元の子どもたちにより「一面刺神楽」や「稚児舞」なども奉納されます。人気顔目として四圍りの神話を神楽にした「國平」や、天の岩戸神話を神楽にした「岩戸開き」などがあります。

また当日は、現代ではなじみの無い神話を知って楽しんで貰うため、劇目ごとに解説を行ったり、「高祖神楽」の歴史の販売などを行って、皆様から御愛顧も出ています。

徳満神社

徳満宮は高祖神社参道の脇にあります。昔から牛馬の神様として、近年はベットの守り神として崇められています。祭神は大名持神少彦名神保良神です。

例祭日 九月十三日



金龍寺



妙立寺



家並み



高祖神社は、奈良時代に築かれた「伯土城」の城内にあり、すぐ近くには神宗の名刹「金龍寺」と、ほど近い所には、如意の観音様で有名な「妙立寺」もあります。

その後鎌倉時代には原田氏によって高祖城が築城されました。高祖城主の原田氏の館は神社近くにあつたといわれ、神社への道には城下の家並みが残っています。

高祖神社 関連年表

令和4年1月(2022)

	和 曆	西 曆	年差	事 柄
奈良	神護景雲10	768	1,254	吉備真備 怡土城を築城
平安	元慶元年	877	1,145	日本三代実録にタカソヒメカミに神階を授ける。高祖神社
鎌倉	建長元年	1,249	773	原田種継 高祖城を築城
室町	応仁元年	1,467	555	原田種親が京都の守護に当った時「京の能神楽」を郷土に伝える
	永正 4	1,507	515	原田興種、社殿を再興 現在地に社殿移る 棟札不明
	永正 5	1,508	514	原田弘種 金籠寺を建立
	天文10	1,541	481	原田隆種(興種の子)、社殿を再興 棟札文化財
	元龜 3	1,572	450	原田親種(隆種の子)、社殿を再興 棟札文化財
	天正14	1,586	436	豊臣秀吉九州国分け、原田氏除封(原田愷種系島を離れる)
江戸	寛文 2	1,662	360	黒田光之(福岡藩三代藩主)、社殿を再興 棟札文化財
	元禄 4	1,696	326	「高祖神社縁起」(貝原好古撰)成る
	元禄 6	1,693	329	黒田綱政(福岡藩四代藩主)、石鳥居建立 鳥居額は花山院定城の書
	享保16	1,731	291	氏子、拝殿、渡殿建立 棟札不明
	宝暦 3	1,753	269	本殿奥籠の絵奉納 大宮司殿上加賀守橋和徳 筑前荒瀬之住石川守照筆
	安永 6	1,777	245	箱棟 大庄屋 中村弥次兵衛、三苦元次 村長 内田弥藤太 棟札文化財
	文政 5	1,822	200	箱棟 大庄屋 草場弥次、三苦新三郎 村長 内田次平 棟札文化財
	文久 3	1,863	159	氏子 本社葺替、拝殿桁上 懸魚現存 棟札文化財
明治14	1,881	141	判読不能 棟札文化財	
明治33	1,900	122	本殿・渡殿修繕葺替 棟札文化財	
大正 7	1,918	104	本殿屋根葺替 棟札文化財	
昭和12	1,937	85	本殿・渡殿修繕、屋根葺替 棟札文化財	
昭和41	1,966	56	本殿屋根改築 棟札文化財	
昭和43	1,968	54	植林記念 棟札文化財	
昭和46.5.19	1,971	51	高祖神楽 前原町民俗文化財指定	
昭和56.3.5	1,981	41	高祖神楽 福岡県無形民俗文化財指定	
昭和57	1,982	40	渡殿屋根葺替、拝殿桁上、手洗新築 棟札文化財	
昭和58	1,983	39	神殿補修、拝殿修理	
平成20.6.1	2,008	14	高祖神社修復検討委員会発足 (修復事業実行委員会の前身)	
平成24.3.26	2,012	10	本殿・拝殿・鳥居 福岡県有形文化財指定	
平成24.7.14	2,012	10	高祖神社修復事業奉賛会設立	
平成26.7.15	2,014	8	本殿修復工事開始	
平成28.9.30	2,016	6	本殿修復工事完了	
平成29.3.27	2,017	5	竣工奉祝祭	

高祖神楽

～福岡県無形民俗文化財～



神供の舞



豊姫

海神磯羅

武内宿禰

太鼓・神楽笛

写真は二〇二一年の高祖神楽
(神供、海神、敷袴、推児の舞)



子ども神楽敷袴



推児の舞

- 春神楽(昼)…四月第四日曜日
- 秋神楽(夜)…十月第四日曜日
- 奉納：高祖神楽保存会(神楽師)
- 後援：高祖神楽後援会
- 場所…高祖神社神楽殿
(糸島市高祖一四〇)

高祖神楽

高祖神楽は、今から五五〇年程前(応仁元年)に高祖城主「原田種親」が、周防山口城主「大内政弘」の要請を受け、京都守護職に就いたとき、戦陣の徒然に習得した「京の能神楽」を郷土に伝えたものといわれています。

江戸時代までは旧怡土郡の神職の奉仕で舞われ(現在の形に整備されたのは、この時代と考えられます)明治以降は高祖神社の氏子によって受け継がれました。

終戦後には、神楽師が五人まで減って存続さえ危ぶまれた時もありましたが、この難局を乗り越え、十数人の神楽師が保存会をつくり技芸を受け継ぎ、精進を重ねています。

現在、永い歴史と伝統に受け継がれてきた高祖神楽は、地元の高祖区民が後援会を結成し、格調高い郷土芸能「高祖神楽」を地域の文化遺産として大切に継承しています。

- ◎ 高祖神楽の文化財指定
☆昭和46(1971)年5月19日前原町(現糸島市)民俗文化財指定
☆昭和56(1981)年3月5日福岡県無形民俗文化財指定
- ◎ 現在奉納されている2種の神楽
☆面神楽
面を付けた数人の神楽師が神話の物語を展開させていく神楽
☆舞神楽
面を付けず、採り物(鈴・剣・玉)を挿げて、楽の音にあわせ神楽歌を唱えながら静かに舞う神楽

奉納演目

※奉納順番・演目は変わりますので、ご了承ください。

- 1 神供(ジングウ)～舞神楽
＜鈴と扇を手に神楽の開始を告げる舞＞
神楽は、神代の昔から八百万の神のお心を和ませ、慰める最高の行事だから、今日の佳き日、ただ今からこの場を鎮め清めて神楽を奉納いたします。どうぞ楽しんでまいりますようにとの舞です。
- 2 高処(タカドコロ)～舞神楽
＜高祖神社祭神の神宮皇后の神徳を称える祓いと清めの舞＞
月～この宮の 御極も光る 檜皮置(ヒワダマキ)
栴打つ梁に 黄金花咲く 檜皮置 檜皮置
- 3 世舞(ササマイ)～舞神楽
＜神前に集う全ての人、全ての禍(マガゴト)を禊祓いする舞＞
笹を両手に、大きく振り四方を払い清めながら舞います。
月～雲絶えて 光さし添う
白珠(シラタマ)の 御唾を拭う 沖つ白波
- 4 国平(クニウケ)～面神楽
＜国譲り神話の舞＞
事代主命(コトシロヌシノミコト)は国譲りが平和裏に成立し、美保ヶ関でゆったり釣りを楽しみます。
事代主命は『綱釣り恵比須さま』と呼ばれ、参拝者の中に釣糸を垂らすと、人々は争って釣糸の先に捧げ物を括りつける慣わしがあり、ひとしきり賑わう舞です。
- 5 敷時(シキマキ)～舞神楽
＜米を入れた折敷(オシキ)を両手に五穀豊穡を祈願する舞＞
月～天降す 水かど見れば 白米(シラガ)ふる
玉の壽詞(ユコト)に 續はえにけり
- 6 磯羅(イソラ)～面神楽
＜出征前に航海安全の為、潮干(ヒル)珠、潮満(ミツ)珠を譲り受ける舞＞
神功皇后が武内宿禰に命じ、海神「磯羅」から潮の満ち引きを自由に操れる千珠(カンジュ)・満珠(マンジュ)を借り受ける神楽です。
月～息長足比女命(オキナガタラシヒメノミコト)
神の命に 海神(ウタツミ)の 二つの玉を 奉りける
※息長足比女命は神功皇后の別名

7 両剣(リョウケン)～舞神楽

＜倭健命(ヤマトタケルノミコト)と草薙(クサナギ)の剣の神話を讃える舞＞
両手に太刀を持ち、神楽歌を歌いながら国運隆昌を祈願します。

月～ 剣太刀 国を治むる 例(サタメ)とて

神の御前に 獻(カマツツ)りけり

8 問答(モンドウ)～面神楽

＜禍を持ち込む荒振神(アラフルカミ)を翁が説き伏せる舞＞

翁の神が荒振神に「此処は鬼の住むところではない、自分の国に帰れ」と諭し、問答が行われます。

この鬼は社殿に参拝するので「お宮参りの鬼」と呼ばれます。

参拝後の鬼に頭を撫でて貰うと鬼のように頑丈に成長するといわれ、先を争って子ども頭の頭を撫でて貰う人達で賑わいます。

9 藝目(ヒキメ)～舞神楽

＜妖魔退散を祈願する舞＞

藝目は、鎗矢(カブラヤ)より大きく、先端は卵型で首を出すための穴(目)があつて藝(ヒキガエル)に似ています。「響き目」から転じたといわれます。竹製の矢を四方に放ち、悪疫、悪霊を退散させます。

月～ 梓弓 引目鎗矢 おし返し 祈れば神も 受け納むらん

10 岩戸開き～面神楽

＜天の岩戸神話の舞＞

須佐男命(スサノオノミコト)は天上界で乱暴の限りを尽くします。天照大神(アマテラスオオミカミ)は天の岩戸に引き籠り、高天原は真暗闇になります。

八百万の神は須佐男命を遠放し、天照大神の怒りを和らげ、光を取り返すため力を尽くします。手力男命(タゲカラオノミコト)の岩戸開きが見どころです。

○ 稚児舞

＜鈴の舞、扇の舞、鉦の舞＞

稚児は清浄で汚れが無く神が依りつくときれています。平成の初めから奉納される怡土中央台保育園の園児の可愛い舞です。

○ 子ども神楽

＜笹舞、敷時、両剣＞

青少年の健全育成と高祖神楽の後継者育成のため令和元年に発足しました。時代を担う若者たちです。

原田家の高祖城へいざ！登城！



舌備長備が築城した城郭を歩き登ろう！

高祖山の城の歴史

高祖山には、二つの時代にそれぞれの城がありました。
先ずは、奈良時代に吉備葛城により築城された高祖山城（756年～708年）は、唐（中国大陸）からの侵襲に備えた山城として築かれ、「中国式山城」と呼ばれ、周囲2キロに渡って急峻な土塁・石垣で城を構え、大宰府の守りとして築城されました。

その高祖山の構えを利用して鎌倉時代に原田種朝により築城（1249年）されたのが高祖城です。

二つの時代に遽然と輝く歴史を持つ

高祖山にタイムスリップしよう！

高祖城登城乃因



このエリア全体が奈良時代に造られた
怡土城・城郭の一部です。

妙立寺
如意輪観音堂

高祖城跡
上の城

登城道

下城

経津橋
熊取の住民に架かせた橋

鬼が城と呼ばれる場所

山上に築かれた城に討ち、麓に築かれた館で、

朝飯と明けは政治を行ったり、茶の生活をした

場所です。天正15年（1587年）九州征伐の

秀吉の大軍を見て、信朝は降伏し、高祖城が

秀吉の手に落ち、この館も灰燼に帰した。

この一帯には、原田家5代らの屋敷があつたと伝えられています。

馬田第四郎政吉（長政公の次男）の廟所に墓参される馬田長政公

原田家の菩提寺・馬田家の菅首観音堂

下地郡北古村の女 有田半島氏墓所

高祖山に上る道

高祖山に上る道

高祖山に上る道



高祖神社
御本殿 上三日月

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖神社

高祖山に城を構えた原田家の豆知識



原田家の家紋は「三つ引き家紋」と云う。武士に典型的な家紋として、使われた。

丸に二つ引き家紋は、足利將軍の家紋です。

足利尊氏は1386年、戦いに敗れて九州に落ち延びてきたが、迎え撃つ「菊池軍」と多々良川の戦いで勝利し、九州勢を引き連れて上京し、朝廷軍を破り室町幕府を開いた。

郷士の名主達も京都で奮戦！（原田氏・平島氏（丹波郡）原田家の家紋は足利家の家紋に似ていたのかも？

又、高祖神楽は原田筑前守種朝が京都守護の

大任に当たった時、戦陣のつれづれに習得した

「京の能神楽」を郷土に伝えたものとされています。

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

原田種直肖像画

怡土の山々に登ろう！



有光どんのモチ二斗唄い



約150年前(1571年)この地に次郎助と云う大男が居た。高祖城主原田隆輔の前で一斗のモチを食ふことになり、ある朝、予行練習に一斗のモチを食ふ終つたばかりに、殿様からのお呼びで、今から食ふべしと云われた。今さつき食ふばかりに、正面に申し出て断ろうと思つたが、もともと好きなモチのこと、我が腹にして何事やあらんと、その日に二斗のモチを見事にたいらげた。要美として武士に取り立てられ、その名も「有光次郎左衛門」と名乗り「わしの腹はお城の見える所に建ててくれ」と、云ひ残してこの世を去つた。有光どんの腹には胃腸の弱い人々の守り神として参拝が、あいついだと云う。今も「有光どんの墓」として、高祖山を正面に見据える三雲に、祀り起られている。
〔文庫は絶版されています〕

波磨を拒んだ伝説(如意輪観音さま)

高祖山の中腹にある如意輪山妙立寺は幸島の石山寺と云われるだけあって境内には自然の奇岩や怪石が散在し、林間紅葉の中を、清水が流り「原田寺」が命名したと云う「とどろの滝」などの仙境をなしている。寺の少し山手に登ると、木の葉隠れに茶室を思わせる小綺麗な観音堂がある。話はその観音様の由来である。承和二年(835年)の秋のこと、京都比叡山の慈覺大師が時の仁明天皇の命を受け、唐(中国)に留学された事になりかねて聖徳太子の手形になる観音像を拝仰していたのでその観音像と数人の学僧を従え今州に到着され、今津に滞在される事約半年、船の装飾も豪華イカリを掲げ帆を垂つて外海に出ようとしたが、.....
〔文庫は絶版しています〕



怡土校区に伝わる昔話

- クスギの庚申さま・伊勢から飛んできた重上神さま
- 伊勢生まれの利平とその妻子が妖怪の未四村へ
- 王丸の鷹掛十字・伊能忠教が願する中で
- 伊能忠教が願かけた石と可也山山頂が同じ高さ？
- 桑井の奇跡・全国にある、神功皇后伝説
- 大門・桑井の井戸に勝神を掛けたヨロイは赤く染まり
- 猪うち作兵衛・秋越の引金に手は掛けたが
- 井原山奥水無村の源節作兵衛は猪に腹を突けた
- 焼き殺された大石・井田の用会トルメン伝説
- この大石は昔山手の井原山村にあったものだが
- 原田のお家騒動・父に責められて自害した兄弟
- 弘治三年(1557年)原田家起こった悲劇話
- 波磨を拒んだ伝説・妙立寺の如意輪観音さま
- 有光どんの墓・二斗のモチをたいらげた男

上四つのお物語は、高祖山にまつわる話です。

同船寺方面 波多江駅方面
編集・怡土の山に登ろう会